



NHO Nishigunma National Hospital

ウイズ

— No.69 —

平成25年1月(2013年)

編集 独立行政法人 西群馬病院
発行 国立病院機構

電話 0279-23-3030

FAX 0279-23-2740

E-mail: nishigun@nng.hosp.go.jp

http://www.hosp.go.jp/~wgunma



新病院イメージ図

独立行政法人
国立病院機構

西群馬病院の基本理念

患者さまと共に考える医療

1. 専門性の高い良質な医療を推進します
2. 十分な情報を提供し、生活の質 (QOL) を尊重します
3. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します
4. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児(者)の専門病院として、社会に貢献します
5. 地域医療支援病院として、地域医療に貢献します
6. 健全な経営と適正な運営に努めます

目次

- * 渋川医療センター(仮称)の基本的方針とその進捗状況のご報告 … 1
- * 第7回国立病院機構西群馬病院院内学会 … 4
- * 第11回市民公開セミナーの開催について … 5
- * 平成25年1月より整形外科診療が充実します … 6
- * 研修会報告 … 7

シリーズ

- * 診療科紹介 … 8
- * 健康シリーズ … 9
- * 医療安全管理室だより … 10
- * 重症心身障害児(者)病棟だより … 11
- * 栄養管理室だより … 12
- * ボランティアだより … 13
- * ICT部会だより … 14
- * 地域医療連携室だより(地域医療機関の紹介) … 15
- * がん相談支援センターのお知らせ … 16
- * 診療方針・看護の理念 … 17

渋川医療センター(仮称)の基本的方針と その進捗状況のご報告

院長 齋藤 龍生

平成24年2月、国立病院機構矢崎理事長・渋川市阿久津市長・国立病院機構西群馬病院齋藤院長・渋川市立渋川総合病院横江院長によって「西群馬病院・渋川総合病院統合による新病院の整備及び運営に関わる基本協定」の調印が行われました(写真1)。これにより独立行政法人西群馬病院は、平成22年度群馬県地域医療再生計画に基づき、渋川市立渋川総合病院と統合し、国立病院機構と渋川市が連携して、渋川市白井地内に新たに土地を取得し、450床の新病院(独立行政法人国立病院機構渋川医療センター(仮称))を整備することになりました。

昨年4月には西群馬病院に新病院整備室、渋川市役所内に病院再編準備室改め病院再編推進室が設置され、平成27年度開院に向けて、基本設計・用地取得・実施設計・造成工事・建設工事に関わる事業を、順調に進めております。本事業を推進するに当たり、国立病院機構・渋川市議会・群馬県・渋川地区医師会・渋川総合病院再編統合特別委員会等の多大なご支援を頂いているところです。渋川市白井地区に予定されている新病院予定地43,000㎡は鯉沢バイパスに面し、渋川駅から病院行きのバスも運行予定で、渋川伊香保インターから車で5分、群馬大



左から 西群馬病院齋藤院長 国立病院機構矢崎前理事長 渋川市阿久津市長 渋川総合病院横江院長(写真1)



(写真2：鳥瞰パース)

学医学部附属病院から車で20数分とアクセスが大変良くなります。吾妻地域、利根・沼田地域と前橋・高崎市を繋ぐ幹線道路沿いに位置することになり、従来前橋・高崎地域に流出していた救急を含む患者を受け入れることが可能となります。新病院は、地下1階地上7階建ての免震構造で、緩和ケア病棟は庭を整備した地上に配置し、災害拠点病院としてヘリポートも整備されます。この度、新病院の動画が完成し、ホームページにアップいたしましたので、是非ご覧ください。(写真2・3)

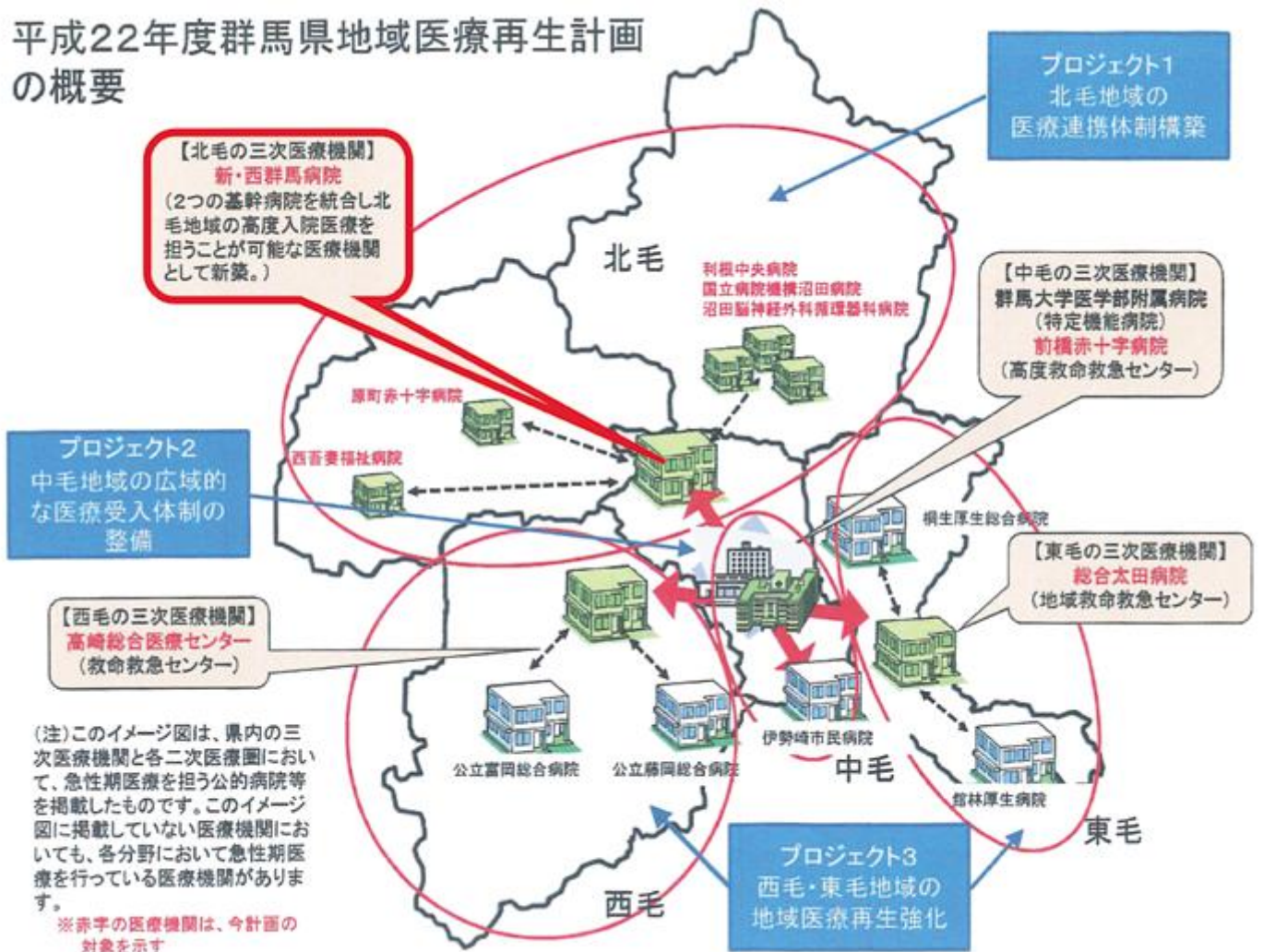


(写真3：エントランス中央)

新病院は両病院の統合により、当院の持つがん診療連携拠点病院・地域支援病院・セーフティネットワーク医療（結核および重症心身障害児の療育）という政策医療の機能に、渋川総合病院の持つ救急・災害・感染症対応機能が加わり、診療機能が強化され、群馬県地域医療再生計画における「北毛地域の医療連携体制の基幹病院」と位置づけられることになりました（写真4）。新病院での診療科は現在の12診療科から渋川総合病院が有する診療科が加わるとともに、群馬県医師確保対策室・群馬大学医学部各講座・渋川地区医師会などのご支援を頂いて、更なる診療科の充実を目指して参ります。まず本年1月からは整形外科の常勤医加家壁医師をお迎えし、整形外科の診療を新たに開始いたします。

地域に愛される病院という想いを込め、今年のへそ祭りには両病院の職員が積極的に参加し、新病院の名称にも「渋川」という名前（仮称：渋川医療センター）をつけたいと思っております。H27年開院に向けて、両病院の職員一丸となって取り組んで参りますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

平成22年度群馬県地域医療再生計画の概要



(写真4)

第7回 国立病院機構西群馬病院院内学会

統括診療部長 渡邊 覚



12月6日17時より国立病院機構西群馬病院院内学会が87名の参加で開催されました。院内学会は平成17年より開始され、平成18年は病院機能評価受審のため休会でしたが平成19年以降は毎年一回病院忘年会の前週に開催されており、今回で第7回となりました。

今回の学会テーマは「医療安全」「経営改善」「その他」でしたが7演題と例年よりも少ない演題数だったため、途中休憩なしで約90分間連続

して演題発表が行われました。しかし、そのためか参加者は集中して発表を聞くことができた様子で途中退席も少なく、短時間で行うメリットも感じられました。

今回の演者はベテラン職員が多く、発表態度は皆堂々としていて発表方法にも工夫がみられ、内容も非常に充実していました。学会終了後の講評の多くは「どの発表もすばらしく、採点が難しい」との内容でしたが、一部で「1年生大会があっても良いのではないか」という意見もありました。7名の審査員による厳正な審査の結果、最優秀賞は主任医療社会事業専門職尾方仁さん「西群馬病院ボランティア活動の軌跡～「ボランティア委員会」活動より～」、優秀賞は病理医長岩科雅範先生「リンパ腫病理組織診断における免疫組織化学の意義について」と、手術室看護師草間成子さん「呼吸器外科側臥位手術患者における肩部痛緩和の介入評価」に決定しました。

今後も院内学会を継続して行うことによって各職員が他部門の役割・活動内容・問題意識・課題などを相互に理解し、部門間のコミュニケーションを深めてチームワークの良い働きやすい病院（職員満足度の高い病院）になるために役立つよう期待します。また、新人職員が学会発表の練習の場として利用していただくのもよいと思います。



第11回市民公開セミナーの開催について

庶務班長 丸橋 光明

西群馬病院では春と秋の年2回、がんに関する市民公開セミナーを開催しています。秋のセミナーは「がん無料相談会」「健康測定と健康相談会」「公開セミナー」の3本立てとなっており、「がん無料相談会」は、当院の医師による各種がんの治療相談や、ホスピス（緩和ケア）に関する相談を行っています。

「健康測定と健康相談会」では、看護師による血圧測定をはじめ、当院職員によるお薬相談、栄養相談、CT・MRIの説明・相談、福祉相談等の各種相談や、アロマケア、動脈硬化度測定、骨密度測定、肺年齢測定等を実施しており、特に測定関係は毎回整理券を配布するほど好評を得ております。

「公開セミナー」は当院の医師が一般の方向けにがんに関する講演を行っており、今年は「患者に優しい血液がんの治療～みんなで考え、みんなで乗り切ろう～」と題して松本内科系診療部長が、また、「病理解剖とは何ぞや」と題して岩科病理医長がそれぞれ講演を行うこととなりました。

11月4日の日曜の午後、雲一つ無い青く晴れ渡った空のもと、第11回市民公開セミナーは開催されました。

当日は天気が良いだけでなく気候も穏やかで、会場で準備をしているスタッフでさえ観光地に出かけたくなるほどの紅葉日和でした。こんなに天気の良い日に果たしてどれだけの人が来てくれるだろうか、とみんな心配していましたが、開演の1時間前から来られた方もおり、蓋を開けてみれば100名を超える方々が足を運んで下さり、相談会や健康測定も長い行列が出来て、市民公開セミナーは今回も大盛況のうちに終わりました。

紅葉が見られなかったのは少し残念ですが、相談を終えた際の皆さんのほっとした笑顔を見られて、次回はもっと皆さんに喜んでもらえるようなセミナーにしたいと心に誓った秋晴れの1日でした。



松本守生内科系診療部長



岩科雅範病理医長



平成25年1月より

整形外科診療が充実します

整形外科医長 か や かべ まさと 加家壁 正知



新年明けましておめでとうございます。

平成25年1月より新しく西群馬病院で整形外科を担当させていただく加家壁正知（かやかべまさと）と申します。宜しくお願い申し上げます。

私事ではありますが、群馬大学在学中に公衆衛生の地域医療の実習で、父島にある小笠原村診療所に見学に行かせて頂いたことが、整形外科の道を選ぶきっかけとなりました。父島は、私が実習に行った当時から現在まで公共の交通手段はおがさわら丸という船しかなく、片道25時間かかり、しかも週に1往復しかしておりません。自治医大を卒業され赴任されていた内科の先生は、島で唯一の医師であり、自分の専門以外の疾患も、時には教科書を片手に必死で診療されていました。先生に最も不足している分野について尋ねると、父島のような島では、重症な慢性疾患を抱えている方にはなかなか住むことが出来ず、元気で活発な方が多いことから整形外科が必要だと仰せになり、この言葉がずっと頭に残っていたため、大学卒業と同時に群馬大学整形外科に入局いたしました。その後、自らの希望で研修させていただいた岡山県の竜操整形外科病院では、四肢の外傷から膝や股関節などの人工関節、脊椎疾患、リウマチなど診断から治療まで幅広く学び、そこから新潟手の外科研究所に研修に行かせて頂き、現在は埼玉手外科研究所で学んでおります。

これまで西群馬病院では、整形外科の外来や手術はほとんど行われておらず、事実上ゼロからのスタートとなります。西群馬病院ではこれまでがんと中心に診療されておりますが、整形外科では、これまでの診療に加えてがんの病的骨折を含む外科的治療やリハビリにも対応していきたいと考えております。また、高齢化によりロコモティブシンドローム（運動器症候群）に伴う骨折や四肢の変形性関節症の方が増加しております。そのような四肢の外傷や変性疾患につきましても、保存治療から外科治療を希望される方がいらっしゃいましたら全力で対応させていただきたいと思っております。特に手外科、肘関節外科につきましても、関節鏡視下手術やマイクロサージャリーを含めて、これまでの経験を生かせれば幸いと存じます。

まずは、一人での対応となり、ご不便をおかけすることも多々あるとは思いますが、地域に必要とされ、信用される整形外科になるよう精進してまいります。北毛地域の医療を長年支えてこられた先輩の先生方への敬意ともに、今後の御指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

研 修 会 報 告

●平成24年度医事業務研修に参加して●

専門職 山岸 秀樹

9月から11月の各月3日間、合計9日間、機構本部研修センターにおいて、医事業務研修が開催され参加してきました。企画課医療事務室の大部分を占める業務は診療報酬業務です。診療報酬業務とは、医師、看護師等が行い診療録(カルテ)に記載した行為を漏れなく請求して、病院の収入に繋げる非常に重要な業務です。

今回の研修では、現在はこの病院もパソコンで作成している診療報酬請求書(レセプト)を、カルテから読み取り、手書きで作成する行為と、診

療報酬業務に必要な規定や規則を一から学ぶという非常に有意義な研修でした。

私は昨年度、西群馬病院に赴任するまでは、診療報酬業務とは違う他の業務をしばらく行ってきて、医事業務に携わるのは久しぶりでありました。研修に参加することができて、忘れていた基本的な事を改めて思い出すことができるとともに、更には医療事務室内のレベルアップ、その先には病院収入の貢献、及び患者さんへ還元を図っていきたいと考えています。

●「平成24年度赤城人材育成交流研修」を受講して●

保育士 畔上 尚子

この研修は平成24年9月24日から9月28日までの5日間、宿泊生活を通じて生活態度を会得し、友愛心や連帯感を養い、協調性を高めて医療従事者としての能率増進と患者サービスの向上を図ることを目的として開催されました。参加者は関東信越地区に所在する国立病院機構関係に勤務する若手職員47名でした。

様々な職種が一同に集って共同生活を送る中で、国立病院機構の魅力や経営状況などの講義を聴くことができ、また班別討議を通して日ごろ考えていることなどを話し合う中で、あらためて国立病院機構の職員の自覚をもつことができました。また、スポーツや登山、キャンプファイヤーなどの

楽しい企画もあり、仲間の交流を深めることができるとても充実した研修でした。職種や環境も違う方々と協力して日々の生活を送ることは大変であり、自分の考えや思いと違うことも多々あることも知らされ、集団活動の大変さと大切さを実感することができました。班活動を中心に過ごした5日間の研修を通して、互いの力を合わせて一つのことをやり遂げるという達成感も得ることもできました。このように研修で学んだ様々なことをこれからの日々の業務に活かしていきたいと思えます。

最後に今回の貴重な研修に参加させていただきました関係各位に感謝申し上げます。

12病棟看護師 高橋 琴実

うすべきかを考え、行動すること。」であると話していた。

今回の研修に参加し、今までの自分は本当に患者の立場に立った看護を実践できていたか、考えさせられるよい機会となった。私が勤務しているのは重症心身障害児(者)病棟であるため、患者の想いを理解することがとても重要となる。今後も患者の目線・立場に立った援助ができていくか考えながら看護を行っていきたい。

臨床検査技師長 大川 正人

当院の臨床検査科は、統括診療部長が臨床検査科の科長を兼任し、病理医長と臨床検査技師9名で、土曜日勤務を含め、時間外もオンコール体制で待機しております。また、検査部門は、検体検査、生理機能検査、病理検査に分かれています。

検体検査部門は、診察前検査と病棟至急検査が増加し、検査項目は300項目を超える大量のデータが得られています。また、安全で安心な輸血が行われるよう輸血前後の感染症検査等が実施されています。

生理機能検査部門では、心電図検査、肺機能検査、脳波検査、聴力検査、超音波検査があり、超音波には超音波検査士を配属し、乳腺・甲状腺・腹部・心臓・血管超音波検査と骨密度検査を実施しています。

病理検査部門では、細胞検査士を取得している主任技師を病理部門責任者として配属し、術中迅速病理組織標本作製、免疫染色検査等により病理医の診断の役割を担う検査となっています。

また、西群馬病院では、がん診療連携拠点病院機能強化事業として、春と秋に年2回の市民公開セミナーを開催しています。秋のがん無料相談会、健康測定、健康相談会において臨床検査科は健康測定としての骨密度測定と肺年齢測定を実施しており、限られた時間ですが、毎年、多くの方にご参加して頂いております。

病院の理念である「患者さまとともに考える医療」と共に臨床検査科の理念としては、『自己研鑽に励み、検査技師としての資質の向上に努めます。』、『安全で正確な検査を行い、結果を迅速に報告します。』、『患者さまの生命と人権とプライバシーを尊重します。』を心がけております。臨床検査科も病院の一部門として今以上に信頼され、検査科内のコミュニケーションを取り、スタッフが豊かな成長を遂げていけるよう強い使命感をもって、職務に励んでいきたいと思っております。

今後は、統合再編新病院、独立行政法人国立病院機構渋川医療センター（仮称）の新病院整備に向けて、臨床検査科としても、電子カルテ導入に向けて検査システムの構築を思案に入れながら、さらに臨床検査科の機能の充実と拡大を進めていき、これまで以上に地域医療連携業務の取り組みを考えていきます。特に、医療機器共同利用として、心臓超音波検査、肺機能検査、骨密度検査等を実施しており、診療に役立てて頂ければと思います。また、平成24年4月の診療報酬改定で地域連携の新たな流れとして「感染防止対策加算」と「感染防止対策地域連携加算」を取得したことにより、今まで以上に地域におけるチーム医療への参画を強化し、多くの地域医療機関の先生方の診療機能向上に貢献できる臨床検査科としての役割を担っていきたくて考えております。今後共どうぞ宜しくお願い致します。

呼吸器科医長 吉井 明弘

COPDという言葉をご存じでしょうか？COPDとは慢性閉塞性肺疾患（chronic obstructive pulmonary disease）の略語で、従来は慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称です。COPDは「タバコの煙を主とする有害物質を長期に吸入曝露することで生じた肺の炎症性疾患」であり、喫煙習慣を背景に中高年に発症する生活習慣病です。わが国のCOPD患者は確実に増加しつつあり、40歳以上の人口の8.6%、約530万人の患者が存在すると推定されています。しかし、実際には22万人程度しか治療を受けていないことから、多くの未診断、未治療の患者が潜在していると思われます。

COPDの最大の原因は喫煙です。タバコの煙を吸入することで肺の中の気管支に炎症がおきて、咳や痰が出たり、気管支が細くなることによって空気の流れが低下します。また、気管支が枝分かれした奥にある小さな袋である肺胞が破壊されて、肺気腫という状態になります。肺は再生しない臓器のため、破壊されてしまうと進行することはあっても元に戻ることはなく、酸素の取り込みや二酸化炭素を排出する機能が低下します。

COPDの症状は坂道歩行や階段昇降など、身体を動かした時に息切れを感じる「労作時呼吸困難」が特徴です。慢性の咳や痰も特徴的な症状です。喫煙歴があつて、咳、痰、労作時呼吸困難がある中高年者はCOPDが疑われます。確定診断にはスパイロメトリーと呼ばれる呼吸機能検査が必要です。気道が狭くなっている状態（閉塞性障害）の目安である1秒量や1秒率の低下は重症度の指標となります。また最近では状態をわかりやすくするため肺年齢という指標もあります。高分解能CTでは肺の破壊が検出され、早期の気腫性病変も発見できますが、COPDの早期発見および診断には呼吸機能異常の有無が重要となります。

喫煙歴があり、咳、痰、労作時呼吸困難がある中高年者は積極的に呼吸機能検査を受けましょう。

がん検診を「地域がん診療連携拠点病院」で受けてみませんか。

検診の種類

★肺がん検診（CT、喀痰細胞検査） 費用 10,000円（消費税込み）

※肺がん検診はCT検査のみの場合7,000円（消費税込み）となります。

★消化器がん検診（胃・十二指腸ファイバー、腹部超音波検査、便潜血反応、直腸指診）費用 15,000円（消費税込み）

※ただし、オプションとして、1.肝炎検診（2,000円（消費税込み））2.糖尿病・高脂血症検診（1,000円（消費税込み））を付加できます。

ご予約・お問い合わせ

地域医療連携室 電話0279-23-3294

※群馬県内では、西群馬病院と他7病院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定

我が国に多いがん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん等）について、住民がその日常生活圏域の中で全人的な質の高いがん医療を提供できる病院

医療安全管理室だより

医療安全管理係長 星野 まち子

毎年度11月25日を含む1週間は、医療安全について医療関係者の意識向上及び医療を受けられる皆様の理解を深めることを目的として「医療安全週間」として位置づけられています。今年度、当院では職員の意識向上を図るため「医療安全推進川柳」を、8月1日～10月31日の期間、全職員から募集しました。具体的方法として「各部署から1句、個人の部から1句を選び院内表彰をする」としました。初めは、なかなか参加に消極的な部署もありましたが、メールで伝えさせて頂いた事により、全部署が参加し、個人の部には98句もの応募がありました。応募された句は、11月5日から医療安全管理室前の廊下に貼り出し（写真）、更には院内LANでも閲覧できるようにしました。当院の職員だけではなく、清掃委託の方や当院に訪問された方々がそれぞれに足を止めて批評されていました。投票は、11月19日（月）の医療安全院内教育講演会に出席した職員にお願いしました。講演会には111人が出席し、投票数は100票、投票率90%という高い投票率となりました。ここで、見事1位に輝いた句を紹介させていただきます。



部署の部：「あれだよね 主語ない会話 事故のもと」 10病棟

個人の部：「ダイジョウブ いったい何が 大丈夫？」 10病棟 袖野宏美さん

昨年、10病棟から出されたヒヤリハット報告書の数は、院内最多でした。それだけリスク感性が高い病棟とも言えますので、このような素晴らしい結果が得られたのではないのでしょうか。また、結核病棟には、外国の方が入院されている為、片言の日本語で「ダイジョウブ、ダイジョウブ」と話す患者さまとの会話の中で、袖野さんは「危険だな」と感じ取る事が多かったのでしょうか。

部署・個人合わせて120句の川柳には、職員それぞれの医療安全に対する思いが込められており、

その中で「確認行為」「連携・チームワーク」「相手の気持ちに寄り添う」がキーワードとして多く出されていると感じました。今後も、このキーワードを大切に、西群馬病院の全職員が一丸となって医療安全に取り組めるよう環境を整えて行く事が私の役割であると、改めて感じました。最後になりましたが、「医療安全推進川柳を募集しよう」という企画は、前任の櫻井医療安全管理係長でした。この企画を実践した事により、実際に職員の医療安全意識の向上が図れた事を伝えたいと思います。



重症心身障害児(者)病棟だより

秋の思い出 ～楽しかった「病棟祭」と「りんご狩り」～

保育士 小板橋 由江

<病棟祭>

10月12日、爽やかな青空の下、屋外訓練場に利用者さんご家族、ボランティアさんが集まって病棟祭が行われました。

今年は「ミニ運動会」を企画し、第1種目は立ち並ぶ六つのテントで競い合う「ボール拾い競争」を行いました。1人がテントの裏側に立ちテントの屋根にボールを投げ、反対側にいるもう1人がそのボールを箱でキャッチして、取ったボールが多いチームが勝ちというルールでした。第2種目は「ひっぱり綱引き」。ペアを組んで、御神輿や段ボールなどが上がっているマットを綱で引っ張り、早く自分の陣地に引き込んだチームが勝ちになります。「用意、スタート！」の声とともに会場は大盛り上がり。ボールや綱付きマットの動きに合わせて一挙一動する参加者の姿に声援や笑い声が飛び交い、斎藤病院長をはじめ幹部職員も利用者さんと一緒に楽しみ、会場の熱気は最高潮を迎えました。

後半は屋外に設置したエアートランポリンの上に乗ってみる体験や、動物ボランティア「ブレイメンの会」の参加によるワンちゃん達とのふれあいを楽しんで頂きました。ワンちゃんとの交流では「かわいい」という声が多く聞かれ、利用者さんは癒しのひとときを過ごすことができたようでした。体調不良のため外に出られなかった利用者さんにも病室までワンちゃんを連れて訪ねて下さり、利用者全員が思い出に残る病棟祭になりました。



<りんご狩り>

秋も深まる10月18日、りんご狩りを楽しみました。乗り込んだバスの車窓から見える紅葉に会話を弾ませながら沼田市の原田農園へ向かいました。広大な農園に到着した途端、新鮮なりんごの甘酸っぱい香りが漂い、さっそくもぎたてのりんごに舌鼓を打ち、中には皮をむいたりんごを丸かじりする利用者さんもいました。参加した利用者さんの穏やかで笑顔ある表情にご家族や職員もにっこり。昼食はおいしい天津丼をいただき、ご家族からはりんごパフェ作りを体験していただきました。





栄養管理室だより



「旬」の野菜でパワーアップ

栄養管理室長 土屋 尚子

年末年始は通常と違う食生活が続き、胃腸にとってはつらい時期です。寒い冬は運動不足になりがちで体重増加が気になる方も多いのではないのでしょうか。

これから旬を迎える野菜には、冬に蓄えられた余分な脂肪や老廃物を体外へ排出する働きを助けてくれる成分が含まれているものがたくさんあります。体に良いからと同じ食品ばかりの食べ過ぎは逆効果ですので季節の恵みとして適量を摂取しましょう。旬の野菜から菜の花とふきのとうについて栄養成分とおすすめ料理について簡単に紹介します。

菜の花



アブラナ科の野菜でかすかな苦みがあり、カロテンやビタミンC、E、Kなどのビタミン類とカルシウム、鉄、カリウムなどのミネラル類、スルフォラファンなどの成分を含みます。これらの栄養素は体の解毒力や免疫力を高め、風邪の予防、老化防止などに役立ちます。お浸し、からし和え、酢の物、サラダにしたり、ソテー、チャーハン、卵とじ、汁物の具などで春を味わってみてはいかがでしょうか。



ふきのとう



キク科フキ属の山菜で、煮物などにして食べる「フキ」の花のつぼみです。「ふきのとう」が伸びて「フキ」になるのではなく「ふきのとう」とは別の部位が成長して「フキ」になるそうです。

独特の香りとおほろ苦さを持ち、新陳代謝を活発にして体から悪い物質を取り除く作用がある抗酸化物質を含みます。

食べ方としては天ぷらが王道ですが、炒めて少量の酒と砂糖に味噌を加えたふきのとう味噌にすると様々な料理に利用できます。例えば、おにぎりの具にする、おにぎりのまわりに塗り焼きおにぎりにする、ふろふき大根やこんにやくに田楽味噌のかわりにかける、湯豆腐にのせる、きゅうりなど生野菜につける、野菜炒めに加える、パスタに混ぜるなどがおすすめです。春の香りを楽しみましょう。



ボ ラ ン テ ィ ア だ よ り

医療福祉相談室 山田 尚子

平成24年9月7日、NPO法人「じゃんけんぽん」よりタオル帽子の寄付をいただきました。タオル帽子とは、一枚のタオルから縫製が少なくて済む型紙を用いて作る手縫いの帽子です。抗がん剤の副作用で脱毛した患者さんのための手作り帽子で、肌触りが良く色や柄も様々です。ひとつひとつのタオル帽子から作った方の思いが伝わり、一枚のタオルが患者さんの心を癒してくれます。

いただいたタオル帽子は、西群馬病院の「がんサロンやすらぎ」で闘病中の患者さまへ配布させていただきました。「かぶり心地がとても良い」「花柄の帽子で気分も明るくなった」等、患者さまにとっても好評でした。

西群馬病院ボランティア委員会では、タオル帽子の寄付の御返しとして、帽子のもととなるタオルを集めて寄付をすることとしました。全職員に呼びかけ、集めたタオルを「じゃんけんぽん」へお届けしました。このタオルが「じゃんけんぽん」で活動をして下さっている方によってタオル帽子に生まれ変わり、患者さまに使っていただくことにつながります。

一枚のタオルが、みんなの心をつなぐ活動をこれからも広げていきたいと思えます。



ICT部会 だより

ノロウイルス感染症

臨床研究部長 澤村 守夫

感染性胃腸炎のノロウイルスが今冬も、流行し、患者数は2002年以降では06年に次ぎ多い。毎年12月がピークで、ノロウイルスは感染すると数時間から数日で嘔吐や下痢を繰り返す。通常は1-3日で回復するが、脱水症状を起こしやすく、水分を多く取ることが重要である。感染者の嘔吐物や便からの経口感染が主で、耳かき1杯分の便に1億個以上のウイルスが含まれ、10-100個が体内に入ると感染する。子どもやお年寄りがかかりやすく、汚物の排出で河川や海が汚染され、ウイルスを含んだカキなどを十分に加熱せず食べると食中毒が起こる。2次感染による集団発生も問題となる。感染予防が重要で、せっけんや流水による手洗い、食べ物の十分な加熱。タオルは共用しない。患者の嘔吐物や便の飛沫はマスク、手袋をした上で雑巾で拭き取り、袋に密封して捨てる。汚れた床などを塩素系消毒剤（ハイターなど）で殺菌する。

さらにノロウイルスは免疫不全患者（先天性免疫不全、免疫抑制療法や癌化学療法を受けている人、HIV感染症など）の慢性胃腸炎の原因となることがわかってきた。慢性化し、栄養失調、脱水、腸粘膜バリア機能不全を起こし、癌などの原疾患に悪影響を及ぼす。疫学的には免疫不全患者のノロウイルスが医原性のアウトブレイクの原因となることは稀である。遺伝子学的には免疫不全患者に慢性胃腸炎を起こすノロウイルスと、一般の急性胃腸炎を起こすノロウイルスに大きな違いはないと考えられている。今のところ特別な治療法はなく、より嚴重な感染予防が重要と考えられている。

ノロウイルスによる胃腸炎

発生状況	冬に好発し、成人でもみられ、冬以外にも見られる。食中毒の集団発生。
臨床症状	悪心、嘔吐、下痢、発熱、腹痛。有症期間は24-48時間。
検査	検体は便(水様便、下痢便)。EIA法(所要時間は約20分)。PCR法(遺伝子検査)は、主に外注センター(報告所要時間は2から3日)
感染経路	経口・飛沫感染。主に糞口感染。汚染された水や貝、特にカキ類を介した食中毒。
潜伏期	1-3日
治療	対症療法。急速に脱水に陥る症例は経口、非経口的輸液。
行政対応	感染症法第14条で、届出(小児科定点)、最寄りの保健所。食品衛生法第58条で、届出(24時間以内)、最寄りの保健所。

免疫正常患者と免疫不全患者のノロウイルス感染症の特徴

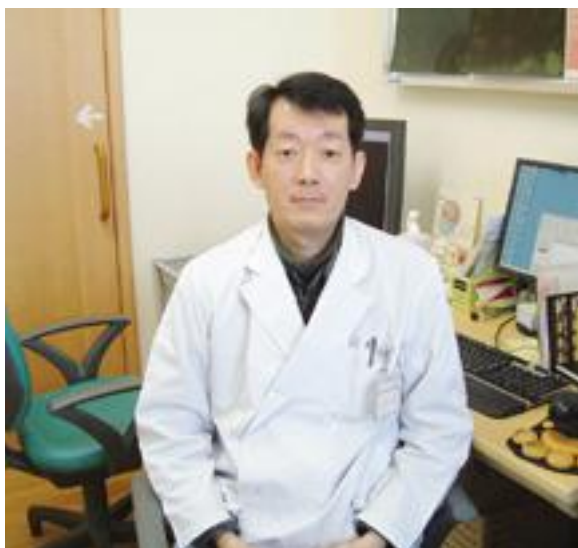
特徴	免疫正常患者	免疫不全患者
流行	世界中の胃腸炎の主因	未確定。17-18%と予想される。
季節性	冬にピーク	一年中
臨床的特徴	急性発症。持続は24-48時間	急性発症。持続は不定。
ウイルス排出	20-40日	数週から数年
ウイルス量	10 ⁸ -10 ⁹ ゲノムコピー(便1g中)	10 ⁵ -10 ⁸ ゲノムコピー(便1g中)。免疫抑制療法の強度による。
宿主中でのウイルスの分子進化	少数の安定型変種	著しく多様な変種が出現
組織親和性	小腸	小腸
合併症	脱水	脱水、栄養不良、腸のバリアの機能障害。
治療	多くは無治療で治る。必要なら輸液。	特別な治療はない。対症療法。免疫抑制療法の調節。
予後	多くは良好。生命をおびやかすこともある。	不良なものから良好なものまで。慢性感染症が多い。

地域医療連携室だより 地域医療機関の紹介

みゆきだ内科医院 院長 吉田 敏彦

早いもので昨年の10月で開業から7年を過ぎました。開業当初は神経内科専門の当院を地域にどう浸透させていくか大変悩みました。神経内科は心療内科や神経科と名前が似ていて、そちらと患者さんが間違いやすいからです。これは学会が紛らわしい名前を付けているのが原因で、大学によっては脳神経内科と標榜しているところもあります。しかし開業当初、この標榜は法律上許されていませんでした。院内やパンフレットにはわかりやすく症状や疾患名を書かせていただきました。結局患者さんは口コミで来院して下さることがわかり、頭痛、もの忘れ、めまい、しびれのみゆきだ内科医院、と年を追うごとに浸透していったようで、初診の患者さんはほとんどがそれらになりました。また、当院は他の医療機関か

らの紹介に負うところが非常に多いです。頭痛や認知症の専門が神経内科だとは一般の方はなかなか知りません。閃輝暗点、目の周りの痙攣や複視は眼科から、歩行障害や手足の震えは整形外科などから紹介していただいています。ではパーキンソン病はどうでしょうか。パーキンソン病は神経内科の専門中の専門の病気です。しかし患者さんが自分の病気はパーキンソン病と気づくことは稀ですし、ましてや、パーキンソン病なら、神経内科、近くの神経内科はみゆきだ内科だ、なんてことはまずありえません。いままで多くのパーキンソン病患者さんを渋川地区全域の先生方から当院に紹介していただいてありがとうございます。これからも専門医の経験力向上のためにもパーキンソン病が疑われたときにはよろしく願い申し上げます。そして、神経内科は高齢者が多く、体力低下による肺炎や、免疫力低下による悪性腫瘍など西群馬病院にはたいへんお世話になっております。今後ともよろしく願い申し上げます。



吉田院長

みゆきだ内科医院 _____
〒377-0006
渋川市行幸田342-9
TEL 0279-60-6070
神経内科、内科、脳神経外科

独立行政法人国立病院機構西群馬病院 がん相談支援センター

ご相談方法

- **がんに関する相談**は「**がん相談支援センター**」でお受けします。
担当: ソーシャルワーカー(尾方・山田・山浦)
電話: **0279-23-3294**(地域医療連携室)・0279-23-3030(代表)
(受付時間は平日9:00~17:00です)
- **メール相談**は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。
E-mail : nishigun@nng.hosp.go.jp

各種がん分野の相談日時

(電話・窓口相談は予約制です。相談は無料です。窓口相談はお一人30分以内でお願いします。)

	分野	相談員	電話相談				窓口相談				メール相談
			曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	
1	肺がん	斎藤 龍生	火	10:00~12:00	木	10:00~12:00	月	15:00~15:30	水	15:00~15:30	月から金
		富澤 由雄				火	13:00~14:00	金	13:00~14:00	月から金	
		川島 修				木	9:00~10:00			月から金	
2	乳がん・甲状腺がん	横田 徹	水	14:30~16:30	金	13:00~14:00	水	14:00~16:30	金	13:00~14:00	月から金
3	食道・胃・大腸がん	小林 光伸	金	13:00~14:00			金	13:00~14:00			月から金
4	肝臓・胆・膵がん	蒔田富士雄	金	10:00~12:00			木	13:00~15:00			月から金
5	血液・造血器がん	澤村 守夫	月	13:00~14:00							月・火・水
6	緩和ケア(ホスピス)	小林 剛	火	13:00~14:00			火	13:00~14:00			月から金
7	その他(1~6以外)	蒔田富士雄	金	10:00~12:00			木	13:00~15:00			月から金

*メール相談の受付時間は、9:00~17:00

セカンドオピニオン担当医表

科別	予約時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後2時~	-	富澤 由雄	-	-	-
	午後3時30分~	斎藤 龍生	-	斎藤 龍生	-	-
呼吸器外科	午前中	-	-	-	川島 修	-
血液内科	午後2時~	澤村 守夫 松本 守生	-	-	澤村 守夫 磯田 淳	-
乳腺・甲状腺科	午後2時30分~	横田 徹	-	横田 徹	-	-
消化器外科	午前中	蒔田 富士雄	-	-	蒔田 富士雄	-
放射線科	午後3時~	-	松浦 正名	-	-	-
緩和ケア科	午後	-	-	小林 剛	-	小林 剛

対象者：原則として患者さま本人、患者さまの同意を得た家族
お問い合わせ先：TEL0279-23-3294 地域医療連携室(直通) 費用：30分毎に5,250円

診療方針

- 1.がん、特に肺がん・肝がん・造血器腫瘍等を中心とした悪性腫瘍の診断治療を一層強化する
- 2.結核患者の県内拠点病院として質の高い医療を提供する
- 3.重症児（者）の療育については、各職種の連携を密にし、チーム医療の充実を図る
- 4.PCUについては、患者の満足度の更なる向上を目指して、全人的ケア（肉体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛に対するケア）を充実させる

看護の理念

患者さまの立場にたった最善の看護

- 1.患者さまの生命および人権を尊重します
- 2.安全で適正な看護に努めます
- 3.思いやりと真心をこめて看護します
- 4.患者および家族の皆様と共に考える看護に努めます
- 5.知識・技術を向上させ、専門性の高い看護を志します

患者さまの権利

- 1.最善の医療サービスを受ける権利
- 2.人格・人権を尊重される権利
- 3.知る権利
- 4.自己決定権
- 5.プライバシーを保護される権利

外来診療担当医表（平成25年1月4日～）

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医
消化器内科	5診	オオツカ 敏之	5診	イマイズミ 今泉 淳	5診	オオツカ 敏之	5診	ヤマザキ 山崎(群大肝臓)	5診	コジャアキコ 古謝亜紀子
呼吸器内科	6診	タケイ 武井 宏輔(AM)								
	7診	サイトウ 斎藤 龍生	7診	イイジマ 飯島 浩宣	7診	サイトウ 斎藤 龍生	7診	トミザワ 富澤 由雄	7診	ヨシノ 吉野 麗子
	8診	ヨシイ 吉井 明弘	8診	クワコ 桑子 智人	8診	ツチヤ 土屋友規子	8診	カミデ 群大(上出)	8診	ワタナベ 渡邊 覚
血液一般内科	3診	マワタリ 馬渡 桃子	3診	サワムラ 澤村 守夫	3診	マツモト 松本 守生	3診	マツモト 松本 守生	3診	サワムラ 澤村 守夫
	4診	イソダ 磯田 淳	4診	サイトウ 斉藤 明生	4診	サイトウ 斉藤 明生(AM)	4診	イソダ 磯田 淳	1診	ユズリハ 杠 明憲(新患のみ)
					6診	マワタリ 馬渡 桃子(PM)	6診	ユズリハ 杠 明憲(PM)		
消化器外科	2診	マキタ 藤田富士雄(AM)	6診	コバヤシ 小林 光伸			2診	マキタ 藤田富士雄	4診	トツカ 戸塚 統(AM)
呼吸器外科					6診	カワシマ 川島 修(AM)	6診	カケガワ 懸川 誠一(AM)	6診	カワシマ 川島 修(AM)
乳腺甲状腺			2診	ヨコタ 横田 徹	2診	ヨコタ 横田 徹			2診	ヨコタ 横田 徹
	2診	ヨコタ 横田 徹(PM)								
緩和ケア	6診	コバヤシ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ 小林 剛(PM)
整形外科			5診	カヤカベ 加家壁正知(PM)			5診	カヤカベ 加家壁正知(PM)	5診	カヤカベ 加家壁正知(PM)
精神腫瘍科	外来指導室	マジマ 間島 竹彦(PM)								
放射線科	放	マツウラ 松浦 正名								

新患・再来予約外 受付時間 8時30分～11時00分
 ※午後の整形外来のみ、15時まで初診の受付もいたします。
 ※担当医が変更になる場合もございますので事前に電話でご確認下さい。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。毎年、初詣は東京の浅草寺に行きますが、去年はあまりの混雑で浅草寺のお参りではできなく家に帰宅し、後日近所の神社に初詣となりました。今年はお寺と神社の両方を予定しています。欲張りですね。ちなみにお寺と神社はどちらでも良いそうですよ。

継続は力なり、小さな継続が必ずや新しい兆しが見えてくると信じて渋川医療センター（仮称）の新病院整備に向けて2013年も頑張っていきたいと思っております。また、実り多き年になるよう編集スタッフ全員で全力疾走したいと思います。（M.O）